

草津コホート研究の概要、研究成果、ならびに今後の課題

東京都健康長寿医療センター研究所(旧:東京都老人総合研究所)と群馬県草津町は、2001年から現在に至るまでの13年間、高齢者の健康余命の延伸、介護保険・医療保険の安定的運営を目的にして共同研究事業¹⁾を実施してきた。その内容は、2001年の「悉皆アンケート調査」を皮切りに、その後、「にっこり健診(生活習慣病のチェック+高齢者総合機能評価)」、「介護予防教室」、「日本動脈硬化縦断研究」へと拡大した。

これまでに実施してきた「にっこり健診」や「悉皆アンケート調査」は、草津コホート研究として位置づけられ、地域在宅高齢者の身体・心理・社会的健康度を長期間包括的に調べたデータとして貴重である。2002年以降毎年実施している「にっこり健診」では、過去12回の調査に1,694名が参加し、述べ参加者数は6,685名である。一方の「悉皆アンケート調査」は、2001年以降の隔年に実施されており、過去6回の調査の応答率は最低91.0%、最高98.8%と高い悉皆性が保たれている。

本抄読会では、先ず、草津コホート研究の歩みや、データを収集する現場の雰囲気を紹介する。次に、上記共同研究事業の成果²⁾として、草津町にどのように貢献したのかを考察する。また、得られたデータを研究に活用した事例として、研究論文^{3, 4)}を紹介する。最後に、当研究所が草津コホート研究データを用いて分析したいと考えている内容を紹介し、今後の課題を整理する。

【参考文献】

- 1) 新開省二, 吉田裕人, 藤原佳典, 他: 群馬県草津町における介護予防10年間の歩と成果. 日本公衆衛生雑誌第60巻第9号 596-605, 2013
- 2) 清野諭, 谷口優, 吉田裕人, 他: 群馬県草津町における介護予防10年間の取り組みと地域高齢者の身体, 栄養, 心理・社会機能の変化. 日本公衆衛生雑誌, 印刷中
- 3) Yu Taniguchi, Hiroto Yoshida, Yoshinori Fujiwara, et al. : A Prospective Study on Gait Performance and Subsequent Cognitive Decline among the Community Dwelling Japanese Elderly. The Journals of Gerontology Medical Science, 67(7):796-803, 2012
- 4) Yu Taniguchi, Shoji Shinkai, Mariko Nishi, et al. Nutritional Biomarkers and Subsequent Cognitive Decline Among Community-Dwelling Older Japanese: A Prospective Study. The Journals of Gerontology Medical Science, in press